

昭和11年 錦水尋常小学校開校時のグラウンド整地作業の思い出

「錦水小学校開50周年史」掲載

*注：昭和11年11月12日 西6線32番地に校舎新築完成

昭和11年12月26日 岐阜・錦水尋常小学校が統合し、錦水尋常小学校と改称

「開校五十周年を迎えて」(抜粋) 大村辰男

(略) 私は昭和9年、旧岐阜小学校に入学しました。入学した時は3学級複式で、2教室しかありませんでした。校舎もだいぶ老朽化しており、冬期間の授業はとても寒く、手にハーパーと息を吹きかけながら授業をしたことを思い出します。

それから昭和11年、旧錦水小学校と統合して現在地に錦水小学校が新築開校されました。新校舎は6教室、そして廊下は長く、当時ではとても立派な校舎でした。

統合になって地域も違い、また漁村・農村との違いもあってクラスによってはしっくりしないこともありましたが、次第に打ち解けて児童数も多くなって楽しく勉強ができるようになってきました。私は一番喜んだことに当時は下駄などで徒歩でしたので、学校が近くなっただけでした。

私たちの学校時代は勉強はもちろんではありませんでしたが、作業の時間が多く取られておりました。まず春先は父兄の方々が刈り出してくれた暖房用の薪積み、そして夏には作物の芋、豆作りの実習、また浜に出てホタテ養殖用の貝殻通しなどが授業の中に取り入れられておったものです。

運動会も他校とのリレー競走があり、この時ばかりの応援はどの学校も力の入れようは大変なものでした。校舎敷地は大変な傾斜地であったため、グラウンドも平坦ではなく、コースによっては苦しみました。

毎年のように父兄の方々がグラウンドの整地に出役され、現在のような機動力もなく、重い重粘土の地にツルハシを振り上げ、馬車にて作業しているようすを授業中に窓から見るとは先生によく叱られたものです。(略)

「もっと担ぎの思い出」(抜粋) 河野彰

昭和12年頃は、日増しに戦時色が濃厚になってゆく時代でしたが、とにかく私たちは当時は珍しい二重に窓の入った新しい校舎へ最初に入れてもらったことは幸せだったと思います。窓枠の白いペンキが鮮やかだったのが目に浮かんできます。

しかし、傾斜地に建てられた学校でしたから運動場は狭く傾斜も強かったので、毎年父兄が出役して拡張工事をされたのですが、生徒もまたそれぞれモッコやツルハシなどの道具を持ち寄って整地作業を行いました。

私はM君とモッコ担ぎをやったのですが、力の強いM君は自分には8割方もの荷物を担ぎ、体格の悪い私の面倒をみてくれた。気はやさしくて力持ちの級友の思い出が蘇ってきます。(略)

(略) 校舎の北側に岐阜神社があります。この神社は岐阜坂の上にありますのを移したのです。(注：昭和13年新築移転) 新しい神社で多くの出征兵士を送り、何回か私も小旗を手に参加しました。

私は古い神社の方が好きでした。大きな木に囲まれた境内の有り様がおごそかでしたし、出征兵士を送った思い出がないからです。

母校の校舎は平屋で屋根が赤く、壁は白くこじんまりしていました。校庭は西から東にひどい勾配があり、少し雨が降っても水の道ができ、大雨でも降りますと必ず大きな溝ができて修復の土をリヤカーでよく運びました、

体育館や講堂がないので学校の大きい行事の時(入学、卒業式や学芸会)には3つの教室の境の板戸を外し、教壇を重ねて式台や舞台を作りました。

毎日の朝礼は廊下に整列し、中央の玄関の廊下に先生方が並んでおられました。雨の日や冬はこの廊下が体育館代わりに使っていたのです。(略)

*注：昭和18年3月卒業